

生涯学習スポーツ振興課

港区生涯学習推進計画（令和3年度～令和8年度）の進捗について

報告内容

港区生涯学習推進計画（令和3年度～令和8年度）に掲載している事業の進捗状況（令和6年度末時点）を報告します。

1 生涯学習推進計画に掲載している事業数

92事業

※事業名等の詳細は別紙1のとおり

2 各事業の進捗

進捗管理票（別紙2及び参考資料）のとおり

（1）年次計画・成果指標を記載している事業（別紙2）

取組の年次計画及び成果指標を掲載している事業について、令和6年度末における進捗を記載しています。

なお、事業の取組や成果の進捗は以下の区分で示しています。

- a：後期3年間の目標を上回って達成する見込みである。
b：後期3年間の目標に到達する見込みである。
c：後期3年間の目標に到達するには、改善が必要である。
－：指標値を把握できない。

《進捗状況別事業数一覧》

進捗状況	a	b	c	－	計
事業数	3	0	0	0	3

（2）その他の事業（参考資料）

年次計画・成果指標を記載していない事業（別紙2以外の事業）について、令和6年度末における進捗を記載しています。

基本目標 1 多様な年代、ライフスタイルに応じた学びの機会の提供

施策	重点 新規	事業名	計画書 掲載頁	担当課
(1) いつでも、誰でも参加できる学習環境の提供	－	① 誰もが学べる機会の提供	40	国際化・文化芸術担当/生涯学習スポーツ振興課/障害者福祉課
	重点	② 生涯学習事業のオンライン配信の推進	41	生涯学習スポーツ振興課
	－	③ 情報化社会に対応できる学習活動の推進	41	生涯学習スポーツ振興課
	－	④ 港ユネスコ協会の支援	41	生涯学習スポーツ振興課
	－	⑤ いちよう学級事業の実施	41	障害者福祉課
	－	⑥ 障害者学習活動の支援	42	障害者福祉課
	－	⑦ 講習・講演会の充実及び障害者自身の自己啓発の支援	42	障害者福祉課
(2) ライフスタイルに応じた学びの機会の充実	－	① 自主的な家庭教育学級の支援	43	生涯学習スポーツ振興課
	－	② P T Aとの連携	43	生涯学習スポーツ振興課
	－	③ 青年期の学びの場の創出	43	生涯学習スポーツ振興課
	－	④ 放課 G0→・放課 G0→クラブの実施	44	各総合支所管理課/子ども若者支援課/生涯学習スポーツ振興課
	－	⑤ 青少年対策地区委員会の活動支援	44	各総合支所協働推進課/子ども若者支援課
	－	⑥ 母子保健健康教育の実施	44	健康推進課
	－	⑦ 子育て講座の開催	44	子ども家庭支援センター
	－	⑧ 平和青年団の派遣	44	人権・男女平等参画担当
	新規	⑨ 探究型学習発表会の実施	45	教育長室
	－	⑩ いじめ防止に関する講演会の開催	45	教育指導担当
	－	⑪ 消費者問題推進員の育成・支援	45	産業振興課
	－	⑫ 消費者教育の充実	45	産業振興課
	－	⑬ 区内産業を支える人材の育成	45	産業振興課
	－	⑭ 地域防災を担う人材の育成	45	防災課
	－	⑮ 防犯学習機会の提供	45	危機管理・生活安全担当
	－	⑯ 小・中学生の環境に関する自主研究の実施	46	地球温暖化対策担当
	－	⑰ あきる野環境学習の実施	46	地球温暖化対策担当
	－	⑱ エコプラザにおける環境学習などの推進	46	地球温暖化対策担当
	－	⑲ 緑と生きもの観察会・調査会の開催	46	環境課
	新規	⑳ みなと芸術センター整備に向けたプレ事業	46	国際化・文化芸術担当

施策	重点 新規	事業名	計画書 掲載頁	担当課
(2) ライフスタイルに応じた学びの機会の充実	－	㉑ 介護予防事業の実施	46	高齢者支援課
	－	㉒ 歩いて学んで楽しむミュージアム巡り事業の実施	47	高齢者支援課
	－	㉓ こころの病気等の普及・啓発	47	健康推進課
	－	㉔自殺予防のための情報提供と普及・啓発	47	健康推進課
(3)多様な学習資源を生かした学びの場の提供	－	① 生涯学習出前講座の充実	48	生涯学習スポーツ振興課
	－	② 芝 BeeBee’s プロジェクトの実施	48	芝地区総合支所協働推進課
	－	③ 親子でエコっとプロジェクトの実施	48	麻布地区総合支所まちづくり課
	－	④ バイエリアみどりでつなぐプロジェクト	48	芝浦港南地区総合支所まちづくり課
	－	⑤ エコライフ・フェアMINATOの実施	48	地球温暖化対策担当
(4) 子どものときから主体的・持続的に学ぶ機会の提供	－	① トレジャー☆スクール～芝体験学習～における体験学習機会の創出	50	芝地区総合支所協働推進課
	－	② 探求型学習発表会の実施〔再掲〕	50	教育長室
	－	③ 地域学校協働活動を通じた子どもの学びの支援	50	生涯学習スポーツ振興課
	－	④ 他自治体との連携による子どもの学びの場の提供	51	各総合支所管理課/各総合支所協働推進課
		⑤ 親子でエコっとプロジェクトの実施〔再掲〕	51	地球温暖化対策担当
		⑥ 小・中学生の環境に関する自主研究の実施〔再掲〕	51	地球温暖化対策担当
		⑦ 生涯学習施設における子どもの学びの場の提供	51	生涯学習スポーツ振興課
		⑧ 児童館、子ども中高生プラザ等における学びの場の提供	51	各総合支所管理課/子ども若者支援課
		⑨ 伝統文化交流館における子どもの学びの場の提供	52	芝浦地区総合支所管理課
		⑩ 図書館における子どもの学びの場の提供	52	図書文化財課
		⑪ 郷土歴史館における子どもの学びの場の提供	52	図書文化財課
		⑫ みなと科学館における学びの場提供	52	教育指導担当

基本目標2 生涯学習施設の充実及び区有施設、地域団体や民間企業等との連携による、学びの機会の提供

施策	重点 新規	事業名	計画書 掲載頁	担当課
(1)生涯学習施設機能の充実	重点	① 生涯学習施設の提供及び強化	53	生涯学習スポーツ振興課
	—	② 生涯学習施設の学習環境の充実と機能の整備	54	生涯学習スポーツ振興課
	—	③ 地域団体や民間企業等との連携による学びの場の提供	54	生涯学習スポーツ振興課
(2)区有施設における多様な学びの場の提供	—	① 生涯学習施設における学びの場の提供	55	生涯学習スポーツ振興課
	—	② いきいきプラザ等による活動の場の充実	55	各総合支所管理課/ 高齢者支援課
	—	③ 児童館、子ども中高生プラザ等における学びの場の提供〔再掲〕	55	各総合支所管理課/ 子ども若者支援課
	—	④ 伝統文化交流館における講座の充実	55	芝浦地区総合支所管理課
	新規	⑤ みなと芸術センター整備に向けたプレ事業〔再掲〕	56	国際化・文化芸術担当
	—	⑥ エコプラザにおける環境学習の推進〔再掲〕	56	地球温暖化対策担当
	—	⑦ 男女平等参画センターの充実	56	人権・男女平等参画担当
	—	⑧ 図書館における学びの場の提供	56	図書文化財課
		⑨ 郷土歴史館での講座の実施	56	図書文化財課
		⑩ みなと科学館における体験する場の提供	57	教育指導担当
(3)様々な主体との連携	—	① PTAとの連携〔再掲〕	58	生涯学習スポーツ振興課
	—	② 港ユネスコ協会の支援〔再掲〕	58	生涯学習スポーツ振興課
	—	③ 青少年対策地区委員会の活動支援〔再掲〕	58	各総合支所協働推進課/ 子ども若者支援課
	—	④ トレジャー☆スクール～芝体験学習～における体験学習機会の創出〔再掲〕	58	芝地区総合支所協働推進課
	—	⑤ チャレンジコミュニティ大学におけるリーダーの養成	59	高輪地区総合支所協働推進課
	—	⑥ 地域間子ども交流 ～あらたなはっけん あらたなきずな～の実施	59	麻布地区総合支所協働推進課
	—	⑦ 子ども地域間交流事業 ～離れていても心は一つ！～の実施	59	赤坂地区総合支所協働推進課
	—	⑧ 赤坂・青山子ども共育事業の実施	59	赤坂地区総合支所協働推進課
	—	⑨ たかなわ子どもコミュニティカレッジにおける交流の促進	59	高輪地区総合支所管理課
	—	⑩ 歴史と文化がつなぐ地域交流事業の実施	60	芝浦港南地区総合支所協働推進課
	—	⑪ 港区スポーツふれあい文化健康財団の支援	60	地域振興課/国際化・文化芸術担当/ 健康推進課/生涯学習スポーツ振興課
	—	⑫ アートイベント「ミナコレ (MINATO COLLECTION)」の実施	60	国際化・文化芸術担当

基本目標3 学びの成果を地域に生かすためのきっかけや仕組みづくり及び参画・協働の推進

施策	重点 新規	事業名	計画書 掲載頁	担当課
(1)学びの成果を生かす機会の提供	—	① 生涯学習講座提供事業（まなび屋）の充実	61	生涯学習スポーツ振興課
	—	② フェスティバルーン（社会教育関係団体の活動成果の発表）	61	生涯学習スポーツ振興課
	—	③ 社会教育関係団体との連携講座	62	生涯学習スポーツ振興課
	—	④ 芝の語り部養成講座の開催	62	芝地区総合支所協働推進課
	—	⑤ チャレンジコミュニティ大学におけるリーダー育成〔再掲〕	62	高輪地区総合支所協働推進課
	—	⑥ 港区観光ボランティアガイドの育成・支援	62	観光政策担当
	—	⑦ 介護予防リーダーの養成	62	高齢者支援課
(2)学びを地域へつなげていくための仕組みづくり		① 学びの循環事業「まなマルシェ」	63	生涯学習スポーツ振興課
	—	② さくらだ学校の運営	63	生涯学習スポーツ振興課
	—	③ ご近所イノベーション学校の実施	63	芝地区総合支所協働推進課
	—	④ みんなでまちをよくする「ミナヨク」の実施	64	麻布地区総合支所協働推進課
	新規	⑤ 麻布地域の魅力伝承事業	64	麻布地区総合支所協働推進課
(3)学びの活動における参画・協働の推進	重点	① 地域学校協働活動の推進	65	生涯学習スポーツ振興課
	—	② 青少年の健全育成のための支援	66	生涯学習スポーツ振興課
	—	③ 学校施設開放の活用推進	66	生涯学習スポーツ振興課
	—	④ 区内産業を支える人材の育成〔再掲〕	66	産業振興課
	—	⑤ 消費者問題推進員の育成・支援〔再掲〕	66	産業振興課
	—	⑥ 地域防災を担う人材の育成〔再掲〕	66	防災課
	—	⑦ みなと環境にやさしい事業者会議の支援	66	地球温暖化対策担当

<進捗状況の区分>
a:後期3年間の目標を上回って達成する見込みである。
b:後期3年間の目標に到達する見込みである。
c:後期3年間の目標に到達するには、改善が必要である。
- :指標値を把握できない。

No.(基本目標－施策－事業)		掲載ページ	重点	新規	事業名	生涯学習事業のオンライン配信の推進	担当課	生涯学習スポーツ振興課	
1-(1)-②		41	○	—					
事業・取組の内容		オンライン配信のための設備を生涯学習センターに整備し、参集型やオンライン講座のほか、参集と組み合わせたハイブリッド形式での講座を実施する。 また、「生涯学習講座の動画配信事業」では、区や関係団体が実施する生涯学習に関する講座等を撮影し、必要に応じて学習できるよう、区のホームページ等で動画を配信するとともに、アーカイブ化した配信動画の充実を図る。							進捗状況
									a
			前期	後期3年間			実績の評価(令和6年度)	事業の課題や改善が必要な事項	
			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度			
取組目標	オンライン配信の講座数 ※後期計画から、オンライン配信の講座数にアーカイブ化した配信動画数も計上しています。	年次計画	4講座	31講座	32講座	33講座	・生涯学習施設によるオンライン配信(ハイブリッド含む)講座および生涯学習スポーツ振興課による講座の動画配信を計7講座実施した。 ・アーカイブ化した動画(令和元～5年度:22講座、再生回数が突出している平成30年度以前の人気講座:3講座)を含め32講座となり、年次計画の目標を上回った。	・再生回数が多い動画と少ない動画の差が大きい。 ・いつでも、どこでも、誰でも受講できるよう、引続き実施形式(オンライン、ハイブリッド、アーカイブ)について検討する必要がある。	
		実績	4講座	32講座					
成果指標①	オンライン配信講座の受講者数／年間 ※後期計画から、オンライン配信講座の受講者数にアーカイブ化した視聴者数も計上しています。	指標①	60人	10,000人	10,500人	11,000人	・新たに追加したデフフットサルのサッカー選手による応援手話の講座については、約2か月で700回弱の再生があり、時流を汲んだテーマ設定の重要性を再認識した。 ・その他の動画についても安定して再生されており、年次計画の目標を上回る人数となった。引続き各講座の情報発信を行う。	今後の取組 ・幅広い世代が受講できるよう、事業の実施方法は、テーマや企画内容等に応じて、より最善の方法を取り入れる。 ・講座のテーマ設定については、ターゲット層を明確にする、動画の再生回数やリアクションを考慮するなど、より需要のあるものになるよう検討する。	
		実績	98人	31,259人					
成果指標②		指標②							
		実績							
成果指標③		指標③							
		実績							

No.(基本目標－施策－事業)		掲載ページ	重点	新規	事業名	生涯学習情報の提供及び強化	担当課	生涯学習スポーツ振興課	
2-(1)-①		53	○	—					
事業・取組の内容		生涯学習情報を必要とする人が、生涯学習情報を入手できるよう、施設のホームページで提供するほか、SNSや施設内のデジタルサイネージを活用して発信する。社会教育関係団体の活動や生涯学習提供事業「まなび屋」の登録講座等の紹介動画を作成し、区ホームページ等で広く提供する。生涯学習センターで収集した生涯学習情報は、学習情報ルームや青山生涯学習館で提供するほか、生涯学習に関する相談時にも活用する。							進捗状況
		a							
			前期	後期3年間			実績の評価(令和6年度)	事業の課題や改善が必要な事項	
			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度			
取組目標	ICTを用いた情報発信数	年次計画	470回	550回	600回	650回	・生涯学習スポーツ振興課及び生涯学習施設においてSNS等を活用した生涯学習情報の発信に積極的に取り組み、令和5年度実績及び年次計画の目標を上回る回数の情報発信を行った。	・今後は発信回数だけでなく、発信の内容や時間帯、方法など、より多くの人に情報が行き渡るよう工夫が必要。	
		実績	818回	1,109回					
成果指標①	ICTを用いた情報発信によって事業に参加した人の割合	指標①	40%	—	—	—		今後の取組	
		実績	15%	—	—	—			
成果指標②	生涯学習講座に参加した人数 ※後期計画から、成果指標を変更しています。	指標②	—	950人	1,000人	1,100人	・積極的な情報発信を行ったことにより、年次計画を上回る講座参加人数となった。	・各事業担当は、引き続き積極的に最新の情報を発信を行う。 ・生涯学習施設においては、引き続き魅力ある講座を企画し、その内容が多くの区民の目に留まるような情報発信を工夫していく。	
		実績	—	1,699人					
成果指標③		指標③	—						
		実績	—						

<進捗状況の区分>
a:後期3年間の目標を上回って達成する見込みである。
b:後期3年間の目標に到達する見込みである。
c:後期3年間の目標に到達するには、改善が必要である。

No.(基本目標－施策－事業)		掲載ページ	重点	新規	事業名	地域学校協働活動の推進	担当課	生涯学習スポーツ振興課	
3-(1)-①		65	○	－					
事業・取組の内容		地域の人材等の協力を得て、地域と区立学校等が一体となって、子どもたちの学びや成長を支える基盤を整備する。 学校のニーズに沿ったきめ細かな支援が行えるよう、各学校に地域学校協働本部の設置し、地域と学校をつなぐ地域コーディネーターを配置し、地域と学校の一層の連携強化と教職員の支援を図る。 また、総合的な学習の時間等における出前授業や職場訪問・職場体験に協力を得られる企業・NPO等の情報を集約し、学校等へ提供する。							進捗状況
									a
			前期	後期3年間			実績の評価(令和6年度)	事業の課題や改善が必要な事項	
			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度			
取組目標	地域学校協働本部設置数	年次計画	29本部	36本部	38本部	41本部	・令和6年度は、芝浦幼稚園、三光幼稚園、芝浜小学校、青山小学校及び高松中学校の5校(園)に地域学校協働本部を新設し、計35本部を設置した。 ・令和6年度中に2校(園)の新設準備を終えるなど、目標達成に向け着実に取り組んだ。	・本部未設置の学校(園)に対し、今後も事業説明、ヒアリングを行うことで設置のメリット等を理解してもらい、令和8年度の全校設置を目指す。	
		実績	30本部	35本部 (開設準備 2本部)					
成果指標①	地域と学校の連携が図れていると感じる協働本部の割合	指標①	76%	80%	85%	90%	・地域との連携・支援により、学校教育が支えられているという学校が多く、また協働本部も活発な活動を行っているため、年次計画の目標数を超える割合を達成した。	今後の取組 ・未設置校(園)から相談があった場合には、事業の理解を深めてもらえるように丁寧に対応する。また、設置に向けて課題がある場合は、解決に向けて一緒に検討していく。 ・各校協働本部において、より効果的な活動が行えるよう、地域コーディネーターを対象としたスキルアップ研修を行う ・学校の事業に対する理解度を高めるため、管理職が変わった学校などに対しては、改めて事業説明を実施する。	
		実績	73%	86%					
成果指標②		指標②							
		実績							
成果指標③		指標③							
		実績							

No. (基本目標- 施策-事業)	掲載 ページ	重点	新規	事業名	担当課	計画に記載している 事業・取組の内容	実績			実績が計画と 異なる理由	令和6年度の評価 と事業の課題	今後の取組
							令和6年度	令和7年度	令和8年度			
1-(1)-①	40	-	-	誰もが学べる機会 の提供	国際化・文 化芸術担 当/生涯学 習スポー ツ振興課/ 障害者福 祉課	生涯学習講座を通じて、年齢や国籍、障害の 有無にかかわらず、誰もが学べる機会を提供 する。講師や受講者同士の交流を促進し、様々 な分野の講座を開催する。	障害の有無に関わらずだれもが参加できる講座を開催し、参加者同士の 交流を図る機会を提供した。 ・講座を3回実施、参加人数28人			-	新たな取組として、嘉悦大学との連携により、 学生と一緒にeスポーツ体験事業を企画・運営 したことで、参加者に学生との交流も楽しんで もらうことができた。	引き続き誰もが参加し、学ぶことができる機会を提供 するとともに、講師や受講者同士の交流促進を図る。
1-(1)-③	41	-	-	情報化社会に対応 できる学習活動の 推進	生涯学習 スポーツ 振興課	パソコンやスマートフォン等を活用し、誰でも 気軽に学習できるよう、情報化社会に対応し た学習活動を推進する。	誰でも気軽に参加し、学習できるようパソコンやスマートフォン等を活 用した講座を開催した。 ・講座を計3回実施、参加人数69人			-	・オンラインツールの活用に関する使い方の講 座は団体からの希望がなかったが、ニーズに応 じて的確に対応できるよう準備した。 ・多くの人に知ってもらい、利用につながるよう 周知拡大が課題。	引き続き、希望に応じてオンラインツールの使い方を テーマにした実践的な講座が開催できるよう対応して いく。
1-(1)-④	41	-	-	港ユネスコ協会の 支援	生涯学習 スポーツ 振興課	区民の国際的相互理解及び親善を促進するた め、港ユネスコ協会が実施する各国の文化を 紹介する講座や、日本文化の体験講座等の活 動を支援する。	スピーチコンテスト、シンポジウム、国際交流講座、文化体験講座等を実 施し、区民の国際的相互理解及び親善を促進した。 ・講座開催数16講座			-	事業に参加した区民に、国際的相互理解や親善 をついて周知・促進することができた。	引き続き、区民の国際的相互理解及び親善を促進す るため、港ユネスコ協会が実施する各国の文化を紹介 する講座や、日本文化の体験講座等の活動を支援す る。
1-(1)-⑤	41	-	-	いちよう学級事業 の実施	障害者福 祉課	知的障害者が学習やスポーツを通じて社会参 加への適応力を高め、仲間づくりを促進する ため、講師の指導による実習や自主企画、宿 泊事業を実施する。	知的障害者が社会参加への適応力を高め、仲間づくりを促進する実習 等を行った。 ・年間活動回数：13回 ・受講者数：延514人			-	・支援者の当日キャンセルにも備えたシステム 作りが課題。 ・受講者の年齢層が幅広く人数も増えているた め、それぞれに対応した取組の実施やより多く の支援者の確保が必要。	受講者の高齢化や人数が増加する状況で、安全に活 動を実施できるよう、年齢によって若年・高齢グルー プを選択できるようにする年齢区分を設けるなど、実 施内容を工夫して事業を進める。
1-(1)-⑥	42	-	-	障害者学習活動の 支援	障害者福 祉課	障害者の福祉増進を図るため、区内障害者団 体が自主的に企画・実施する学習活動を支援し、 障害者の学習機会を確保するとともに、団 体の育成に寄与する。	区内障害者団体が自主的に企画・実施する学習活動を支援した。 ・17団体に対し、合計714,000円を助成			-	講師のスケジュール変更により学習活動を中止 する団体もあったが、障害者団体の自主的な学 習活動に対して支援を行い、障害者が学習する 機会を確保した。	引き続き、障害者団体が自主的に企画し、実施する 様々な学習活動を支援することで、障害者の学習機 会を確保するとともに、団体の育成に寄与する。
1-(1)-⑦	42	-	-	講習・講演会の充 実及び障害者自身 の自己啓発の支援	障害者福 祉課	障害者が学習やスポーツを通じて交流する機 会を確保するため、講演会等の充実を図る。 また、障害保健福祉センター等で各種講座を 実施し、障害者自身の自己啓発を支援する。	障害保健福祉センターにおける各種講座等の実施 ・139講座実施 ・延776名参加			-	感染症防止など対象者の特性を踏まえた対策 を講じながら実施した。	幅広い内容の講座を実施することにより、障害者の交 流の機会の確保と、障害者自身の自己啓発に役立つ よう支援していく。
1-(2)-①	43	-	-	自主的な家庭教育 学級の支援	生涯学習 スポーツ 振興課	保護者の学びを支援するため、区立幼稚園、 小・中学校PTA等が開催する家庭教育に関す る講座に対し、区が講師謝礼を負担する。必要 に応じて保育スタッフを派遣し一時保育を行 う。	10園(校)の幼稚園PTA及び幼稚園連合会(1回)が企画・開催した講座 に対し、講師謝礼を負担することで保護者の学びを支援した。 ・幼稚園PTA 8回 ・幼稚園PTA連合会 1回 ・小学校PTA 1回			-	各PTAが中心となり、家庭教育についての講 座を企画・開催した。申請件数の増加が課題。	引き続き、PTAや子育てグループ等の自主的な講座 の開催を支援するとともに、これまで申請のないPTA 等への周知を改めて行うことで、申請件数の増を図 る。
1-(2)-②	43	-	-	PTAとの連携	生涯学習 スポーツ 振興課	区立小・中学校PTAが主催する体験事業や講 演会を支援するとともに、PTA活動の充実を 図るため、教育委員会との懇談会で意見交換 を行う。また、小学校PTA連合会との協働に より「子どもセミナー事業」を実施する。	PTA活動の充実を図るため、以下の支援を実施した。 ・体験(自然、交流)事業申請件数：12件 ・講演会 1回(幼稚園PTA連合会) ・懇談会：3回(幼稚園1回、小学校1回) ・子どもセミナー事業(令和6年10月30日実施)参加者：62人			-	申請件数や参加者人数が増加傾向にあり、支援 の機会が拡充できている。	引き続き補助金事業や懇談会、子どもセミナー事業を 実施し、PTAの活動を支援する。
1-(2)-③	43	-	-	青年期の学びの場 の創出	生涯学習 スポーツ 振興課	青年期を対象に地域活動の機会を提供し、学 びの場を創出する。区内大学と連携し、生涯 学習施設で活動成果を発表する「フェスティバ ルーン」や講座に大学生が参加し、地域の人々 と交流する場を提供する。	区内大学と連携し、地域の人々と交流する場を提供した。 ・令和6年10月18日(金)開催のフェスティバルーンに明治学院大学学 生参加した。 (参加者：ポップで石鹸づくり 20名、クイズ28名) ・令和7年2月26日(金)、3月5日(金)「新社会人ばるーん交流会 2024私のお酒さがし」(参加者：2回・27名)			-	・「港区・高輪地区内大学連携推進会議」に参加 して事業説明を行うなど、大学連携の拡大を図 る取組を行った。 ・講座の参加者同士が、学びを通して交流する 機会を創出できた。	・引き続き、生涯学習センターで実施する活動成果の 発表の場に参加する大学等を開拓する。 ・青年期が興味・関心のあるテーマ等の抽出を指定管 理者と協力して行う。
1-(2)-④	44	-	-	「放課GO→」・「放 課GO→クラブ」の 実施	各総合支 所管理課/ 子ども若 者支援課/ 生涯学習 スポーツ 振興課	小学生が安全に放課後を過ごすため、区立小 学校に「放課GO→」や学童クラブ機能が付置 された「放課GO→クラブ」を設置し、専門の指 導員が見守る中で、遊びやスポーツ等の活動 を行う。	全区立小学校19校で放課GO→を実施し、うち18校では学童クラブ機 能を有する放課GO→クラブを実施することで、専門の指導員が見守 る中で、遊び、スポーツや工作等の活動をしながら安全に放課後の時間を 過ごす場を提供した。			-	・専門の指導員による見守りだけでなく、様々 な活動を企画、実施し、放課後の時間を過ごす 場を提供することができた。 ・児童数の増加や放課GO→、放課GO→クラブ 需要の増加により、活動室の安定的な確保や拡 大、活動の質の向上が課題である。	各総合支所や教育委員会と連携し、活動室の安定的 な確保や拡大、活動の質の向上に向けた専門の指導 員の研修の充実化等を図る。
1-(2)-⑤	44	-	-	青少年対策地区委 員会の活動支援	各総合支 所協働推 進課/子 ども若者 支援課	青少年の健全育成を図るため、青少年対策地 区委員会(10 地区)が実施する、みなとキャン プ村や親子レクリエーション等の活動を支援す る。	・全青少年対策地区委員会(10地区)が参加してみなとキャンプ村を実 施した。 ・各青少年対策地区委員会において、スキー教室や芋ほり等の事業を実 施し、区はその経費の一部を助成することで、青少年対策地区委員会の 活動を支援した。			-	各総合支所や青少年対策地区委員会と協力し、 円滑に事業を実施することができた。児童にプ ロ対策及び熱中症対策をより徹底させること が課題である。	・みなとキャンプ村は、事業内容を見直しながら引き 続き実施する。 ・各青少年対策地区委員会の活動に対し、経費の一部 を助成することにより引き続き支援する。
1-(2)-⑥	44	-	-	母子保健健康教育 の実施	健康推進 課	妊産婦やそのパートナー、乳幼児の保護者等 を対象に講座等を行い、妊娠、出産及び育児 に関する正しい知識の普及と情報の提供を行 うとともに、地域での友だちづくりを支援す る。	・母親学級 来所者884人(基本コース+オプションコース) ・両親学級 768組 1515人 ・ふたこの会講演会 8人 ・なかよし会勉強会 11人 ・4か月児育児相談 離乳食についての集団指導 537人(24回開催) ・ぶちとまとの会30人(4回開催)			-	利用者が増加傾向にあり、開催方法の見直しの 検討が必要。	両親学級は、コロナ禍以後、1日2回の実施により1回 あたり人数を減らす対応をしていたが、令和7年度 は、対象人数はそのままに1日1回の開催に戻って実 施し、全体的な時間短縮を図る。

No. (基本目標- 施策-事業)	掲載 ページ	重点	新規	事業名	担当課	計画に記載している 事業・取組の内容	実績			実績が計画と 異なる理由	令和6年度の評価 と事業の課題	今後の取組
							令和6年度	令和7年度	令和8年度			
1-(2)-⑦	44	-	-	子育て講座の開催	子ども家庭支援センター	子育て中の保護者や子育て支援に関わる人等を対象に、テーマに沿った講演会等を開催し、保護者等の子育て力の向上と子育て不安の解消を図る。	子ども家庭支援センターや子育てひろば「あい・ぽーと」、みなと子育て応援プラザPokkeにおいて、子育て中の保護者や子育て支援者を対象に子育て講座を実施した。			—	子育ての悩みや不安を保護者同士が共有し、保護者間の繋がりを作ることができた。	引き続き、子育て支援施設と連携を図り、加えて研修等を実施することで、港区で育児をする人やその支援者の子育て力の向上を図る。
1-(2)-⑧	44	-	-	平和青年団の派遣	人権・男女平等参画担当	次世代を担う高校生世代を対象に、戦争体験者との交流や都内平和関連施設の見学、長崎への派遣研修により、平和を築く意識を醸成する。 派遣終了後は学習成果を報告書にまとめ、戦争や核兵器の悲惨さ、平和の大切さを広く地域に発信するため活動報告会を開催する。	・事前研修5回実施(6月～8月) 第1回:「令和5年度港区平和青年団修了生」、「港区語り部の会」との交流会 第2回:「第五福竜丸展示館」見学 第3回:「昭和館、しょうけい館」見学 第4回「東京への空襲についての学習」、「ウクライナからの避難者との交流」 第5回:長崎派遣研修・活動報告会・報告書の企画 ・長崎派遣研修(8月8日～8月10日) ・活動報告会実施(8月24日) ・みなと区民まつりへの参加(10月13日) ・活動報告書作成(12月)			—	・昨年度に引き続き、平和青年団修了生と現役青年団とが交流する場を設けることができ、青年団同士の縦の関係性を継続して育むことができた。 ・事前研修の中で東京への空襲についての学習を取り入れ、団員たちが港区への空襲について考える機会を設けることができた。	・令和7年度は、平和青年団修了生の参画を得ながら、新旧の青年団の交流機会を設けるとともに、若い世代へ向けた平和啓発について、平和青年団の活動を通して、より多くの人に啓発していけるよう取り組んでいく。 ・令和6年度から始まった中学生広島派遣事業に参加した中学生と事前研修や平和のつどいを通してお互いの経験や考えを共有し、平和の大切さを若い世代から、さらに若い世代へと持続的に伝えていく。
1-(2)-⑨	45	-	○	探究型学習発表会の実施	教育長室	区内在住・在学の中学生、高校生等を対象に、作品の制作をとおして探究サイクルを繰り返し行い、主体的・対話的な学習に親しむ探究型学習発表会を実施する。	区内中高生を対象に探究型学習の作品を募集した。79作品の応募作品を区や区と連携する企業・大学(計13団体)が審査し、1月に受賞した15作品の発表会と表彰を行った。			—	・前年度と比較し応募総数は区立・私立ともに大幅に増加した。特に私立に関しては前年度の約2倍の応募数となった。 ・今後は、応募実績がない学校にも積極的に参加してもらうために、周知を工夫が必要。	・より多くの応募があるよう、公私立学校の集まりの場等を活用しながら早期に周知を行う。 ・他部署で実施している事業との作品募集における連携等を検討する。
1-(2)-⑩	45	-	-	いじめ防止に関する講演会の開催	教育指導担当	子どもに関わる全ての行政機関と保護者や地域が連携し、いじめ防止の対策や、不登校の未然防止に取り組む。学校と家庭や地域、関係機関との連携の充実に向け、「いじめ防止に関する講演会」を開催する。	児童・生徒の状況に応じた適切な支援の充実につながる講演会を行った。 ・題名:「小児医療から見る、学校におけるいじめ問題について」 ・講師:こどもとおとなのクリニック パウルーム 黒木 春郎 氏 ・参加者:63名			—	・学校と家庭や地域、関係機関との連携の充実に向け、「いじめ防止に関する講演会」を開催した。 ・子どもに関わる行政機関や保護者、地域に対して開催し、児童・生徒理解の必要性について啓発することができた。	引き続き、学校と家庭や地域、関係機関との連携の充実に向け、「いじめ防止に関する講演会」を参集の形式で開催する。
1-(2)-⑪	45	-	-	消費者問題推進員の育成・支援	産業振興課	区内に居住する20歳以上で、区が開講する一定の講座を修了した人を消費者問題推進員として登録し、普及・啓発活動により区民の消費生活の安定及び消費者知識の向上を図る。	消費者問題推進員 ・運営会議:11回 ・学習会:4回 ・参加者数:延168人			・推進員の希望もあり学習会の回数を増やした。 ・運営会議については台風のため中止した8月の運営会議を2月後半に開催した。	・生活展での発表物は大変良い啓発となったが出前講座への参加等、さらに積極的な活動が必要。 ・登録者数の減少もあり、新規登録者の増加も必要	推進員募集の周知及び消費者講座との連携を強化することにより、新規登録者の増加に努める。
1-(2)-⑫	45	-	-	消費者教育の充実	産業振興課	区内の消費者(子どもを含む)を対象に、生活に必要な知識・情報、技術を提供するため、一日消費者教室や子ども消費者教室、移動消費者教室などを開催する。	・一日消費者教室:3回 参加者数:会場76人、動画46人 ・子ども消費者教室:5回 参加者数:218人 ・消費者力検定講座:全8回+検定試験 参加者数:延48人 ・消費者教養講座:全9回 参加者数:延350人 (基礎講座:62人、応用講座:会場98人、動画190人)			—	・子ども消費者教室は夏休み等、学校の予定を考慮し開催したため、また教養講座は工場見学の実施など、講座内容を充実させたため参加者の増加につながった。 ・検定講座は受講者が少なく、講座受講のメリット等、改めて講座を全体的に見直す必要がある。	独立した検定講座、教養講座を一元化し一つの講座(消費者講座)としてカリキュラムを構成することにより、効率的に消費者力を身に付けてもらう。
1-(2)-⑬	45	-	-	区内産業を支える人材の育成	産業振興課	・多彩な研修プログラムを区内中小企業に提供し、個人が生涯にわたって活用できるスキルを身につける機会を提供する。 ・AI人材を育成する講座を提供するなど、AIに関するスキルを向上できる機会を提供し、高度な専門性と実行力を有する企業人材の育成を支援する。	AI人材を育成する研修や講座などを実施した。 ・ChatGPT研修:35人 ・OA研修:77人 ・WordPress研修:37人 ・WEBマーケティング研修:53人 ・ハイレベルAIエンジニア育成講座:30人			—	指定管理者が有するノウハウや知見を生かし、これまでの人材育成プログラムに加え、ChatGPT等の時代に合わせた内容の研修や講座を実施したことで、参加者の満足度が高かった。	引き続き、個人が生涯にわたり活用できるスキルを身につけられるよう、時代に即した多彩な研修プログラムを提供していく。
1-(2)-⑭	45	-	-	地域防災を担う人材の育成	防災課	・区内の防災士有資格者を対象に研修を実施し、地域の防災活動に携わる人材の知識の向上を図る。 ・防災住民組織で活動する人材の知識や技能の向上、地域での活動へ参画するきっかけづくりを支援する。	防災士有資格者を対象とした研修を2回実施した。			—	・研修には発災時に避難所運営を担う防災協議会の方に参加いただき、コミュニケーションのきっかけづくりを行った。 ・オンラインと対面を併用して実施しているが、顔が見える関係性の構築のため、対面の受講者を増やしていく必要がある。	更なる知識や技術的なスキルアップや、積極的な防災活動へとつながる、顔が見える研修会の実施を継続する。
1-(2)-⑮	45	-	-	防犯学習機会の提供	危機管理・生活安全担当	子どもや女性、高齢者などの区民等を対象に、実践的に犯罪から身を守る知識を学ぶ機会を提供する。	・区民防犯研修会:特殊詐欺被害防止講習会2回実施 ・女性のための犯罪被害防止講習会 1回実施 ・子どもの防犯教室 1回実施			—	・区民防犯研修会では、体験型や演劇による講習会とし、より記憶に残りやすい内容で実施した。 ・女性向けの防犯講習会では、女子大学で授業の一環として開催し、多くの学生に対して防犯講習を実施することができた。 ・特殊詐欺の手法が多様化し、高齢者以外の被害も増えていることから、高齢者以外の区民も対象として、防犯意識と知識の向上に取り組む必要がある。	今後も子ども、女性、高齢者など多様な区民等を対象に、実践的に犯罪から身を守る知識を学べる機会を提供する。
1-(2)-⑯	46	-	-	小・中学生の環境に関する自主研究の実施	地球温暖化対策担当	・区内在住・在学の小学校4年生から中学校3年生までの児童・生徒を対象に、小・中学生が環境について自主的に研究し、環境に配慮した行動の大切さを学ぶ場を提供する。 ・応募作品は審査会で選考し、優秀作品を表彰するほか、入賞作品は区立エコプラザ等で展示する。	応募作品数:333点(内訳) 小学生の部:251点 中学生の部:82点			—	・中学生の部の応募作品数が大幅に減少した。 ・応募作品数増加のため、多方面から周知を図る必要がある。	区HPやSNSを積極席に活用・周知し、応募数増加に繋げていく。
1-(2)-⑰	46	-	-	あきる野環境学習の実施	地球温暖化対策担当	みなと区民の森と周辺の里山や溪流などを活用して、間伐・植樹体験や自然観察体験などの環境学習を実施し、区民、特に子どもたちが、自然の中での体験をとおして学ぶ機会を提供し、環境保全について考える機会とする。	環境学習実施回数:54回			—	環境学習の開催時期や内容によって参加人数の偏りが生じているため、区民へのより一層の周知を図る必要がある。	・SNSの活用やチラシ配布など積極的に周知活動を行う。 ・アンケートを実施して、区民の声を参考にしながらプログラムの改善に繋げる。

No. (基本目標- 施策-事業)	掲載 ページ	重点	新規	事業名	担当課	計画に記載している 事業・取組の内容	実績			実績が計画と 異なる理由	令和6年度の評価 と事業の課題	今後の取組
							令和6年度	令和7年度	令和8年度			
1-(2)-⑱	46	-	-	エコプラザにおける環境学習の推進	地球温暖化対策担当	・脱炭素社会、気候変動、生物多様性などのテーマで、幅広い年齢層を対象とした事業を実施し、区民等の環境保全に関する理解を深め、環境負荷の少ない生活文化の形成に寄与する。 ・環境学習関連図書の閲覧や区ホームページ、SNS等で環境に関する情報を発信する。	・来館者数: 84,684名 (オンライン講座参加者 752名含む。) ・講座実施回数 218回(展示15件含む。)			—	地域連携や関連団体連携を強化し、SNSを活用した広報を行った結果、来館者数が伸びているが、認知度向上のため引き続き広報や連携の工夫が必要である。	講座のみならず、質の高い展示、ECMや学生によるボランティア活動の強化、館内整備を積極的に進め、新規とリピーターの両側面の参加者増を目指す。
1-(2)-⑲	46	-	-	緑と生きもの観察会・調査会の開催	環境課	区民が身近な生きものとその生息・生育場所について興味と関心を持つきっかけをつくるため、夏の昆虫や冬鳥など季節に応じたテーマで観察会や調査会を開催する。	・生物多様性みなとフォーラム観察会: 参加者30名 ・秋の生きもの観察会: 参加者 21名 ・有栖川宮記念公園生物現況調査: ボランティア参加者 16名 ・有栖川宮記念公園ザリガニつり大会参加児童: 40名			—	・生物多様性みなとネットワーク会員の協力を得て観察会を開催し、また、自然教育園の協力を得て生きもの観察会と同時に講演会を開催し好評を得た。 ・生物現況調査、ザリガニつり大会など区民等がに参加する機会を創出できた。	今後も、区民が身近な生きものとふれあう環境学習を推進し、観察会・勉強会の充実を図る。
1-(2)-⑳	46	-	○	みなと芸術センター整備に向けたプレ事業	国際化・文化芸術担当	「みなと芸術センター」の整備に向けて、区全体で機運を高め、全ての区民に愛される施設となるよう、公演やワークショップ等のプレ事業を実施する。	みなと芸術センターの基本理念及び重点的な取組の趣旨を踏まえ、区民等を対象としたワークショップ、旧三田図書館を活用した居場所作り、交流会の実施とシンポジウムを開催した。			—	過去に実施したシンポジウム及びワークショップは、文化芸術に関心が高い人向けの内容となったため、多くの人が関心を持てるような内容のものを検討する必要がある。	令和7年度に開催予定の公演事業、ワークショップ等のプレ事業は、港区らしさや開館後のブランディング・オープニング事業に繋がるものとし、文化芸術を身近に感じ、広く区民に親しまれるものとする。
1-(2)-㉑	46	-	-	介護予防事業の実施	高齢者支援課	高齢者向けの運動機能向上・栄養改善・口腔機能の向上等を目的としたトレーニングや講座等を行う。	・保健事業と介護予防の一体的実施の講座を介護予防総合センター(ラクチャ)といきいきプラザ等で開催した。 ・介護予防事業実施施設の5地区代表者とプログラムの見直しを行い、全施設で統一した内容で提供できるよう改善した。			—	高齢者が自らの生活に合わせ介護予防に取り組めるよう、様々な事業を推進した。介護予防事業実施施設とその他各関係機関と連携する機会を増やし、事業の周知ができた。	・多様な生活様式に合った様々な介護予防事業を実施する。引き続き各関係機関との連携を強化し、高齢者の社会参加を支援する。 ・介護予防効果の検証を行い、分析した結果から事業の見直しを行っていく。
1-(2)-㉒	47	-	-	歩いて学んで楽しむミュージアム巡り事業の実施	高齢者支援課	・高齢者に区内の美術館・博物館に親しんでもらいながら、参加者同士の交流を深め、いきいきと健康的に芸術・文化に触れる機会を提供する。 ・美術館・博物館では、学芸員によるギャラリートーク(展示作品の説明等)や体験・ミニ講座などを実施する。	・いきいきプラザの協力を得て、安全に全4回のミュージアム巡りを開催することができた。各回定員は15〜20名だが、定員を上回る応募もあった。 ・当日の参加者数は、小規模の美術館を巡り延べ67名で昨年を上回る参加があった。			—	・開催後の参加者アンケートの結果は、概ね好評だった。 ・テーマを絞るとともに、施設側との協議を積極的に進め、学芸員などの講話を欠かすことのないよう進めていく。	・いきいきプラザとの連携を深め、積極的な周知のもと、外出機会の創出などの効果を意識した事業とする。 ・芸術・文化に触れる機会として、大学や美術などのテーマを明確にして、参加しやすく工夫して開催していく。
1-(2)-㉓	47	-	-	こころの病気等の理解促進と正しい知識の普及・啓発	健康推進課	・こころの病気に対する関心や理解を深め、こころの病気に対する偏見をなくすため、講演会の開催やリーフレットの配布などにより正しい知識の普及・啓発を図る。 ・こころの病気を抱える人の家族へ正しい知識の提供と、家族同士の交流の場として家族会や家族講座を開催する。	・精神保健福祉講演会2回69名 ・アルコール家族講座2回37名 ・家族会開催11回延 112名 ・医師による相談等45回延74名 ・デイケア事業48回延104名				講演会はグループワークを導入して評価の高いものを実施できた。また、当事者や家族、支援者に対応して事業が実施できた。デイケアは登録者減少のため対策を実施していく。	引き続き、様々な手段で普及啓発につとめ、当事者や家族への支援を行っていく。
1-(2)-㉔	47	-	-	自殺予防のための情報提供と普及・啓発	健康推進課	・こころといのちを支えるキャンペーンを開催し、区内図書館との連携や総合支所等での展示などにより広く区民へ情報提供するほか、講演会を開催する。 ・様々な問題を抱えた人が適切な相談窓口につながるできるよう情報発信を行い、うつ病とアルコール依存症の方の家族を対象に「家族講座」を開催する。	・9月、10月、3月に港区こころといのちを支えるキャンペーンを図書館等と連携して開催。また、ちいばす車内や新橋駅ファロシティビジョン、デジタルサイネージを通じ、啓発映像を放映した。 ・区役所やみなとパーク芝浦、各地区総合支所でも展示を実施した。 ・うつ病家族講座2回開催し、27名の参加があった。 ・広報みなとやホームページ、Xで随時情報発信を行った。				こころといのちを支えるキャンペーンでは、区役所や支所、全図書館での展示のほか、ちいばす車内や新橋ファロシティビジョン等で啓発動画を放映したことで、多くの人に普及啓発することができた。	周知方法、周知場所の検討を行い、関係機関・部署と連携しながら、こころといのちのキャンペーンを継続して行っていく。
1-(3)-①	48	-	-	生涯学習出前講座の充実	生涯学習スポーツ振興課	区民グループ等が自主的に企画する学習会に、区職員を講師として派遣し、区政の取組を説明することにより、区民の生涯学習を支援するとともに、区政参加のきっかけを提供する。	・区民等が主催する学習会等に区の職員を講師として派遣し、区政の取組等の講座を実施し、区民の生涯学習を支援した。 ・区ホームページやSNS等で事業を周知をした。			—	専門知識を活かした講座を実施し、区政の取組について区民に知ってもらうことができた。	引き続き、区民等に出席講座の利用を周知するとともに、講座を学ぶ機会を提供する。
1-(3)-②	48	-	-	芝BeeBee's プロジェクトの実施	芝地区総合支所協働推進課	区民との協働により養蜂事業を実施し、ミツバチの飼育を通じた自然体験学習の場を提供することにより、地域の人と人とのつながりや世代間交流を促進する。	ミツバチの様子を確認する内検と、ハチミツを採取する採蜜を実施した。今年度はLOGOフォームを活用し、参加申し込みを簡易にした結果、参加者が1.5倍に増加した。参加者数が増え世代間交流もさらに進んだ。			—	SNSでの周知や動画を活用したPR方法を検討するなど、情報発信を強化する。	・参加者フォームと情報発信の強化を行う。 ・BeeBee's参加者に向けてイベントを行い、養蜂活動から学ばコンテンツを増やす。
1-(3)-③	48	-	-	親子でエコっとプロジェクトの実施	麻布地区総合支所まちづくり課	地域のボランティア団体や事業所等と連携して、子どもたちを対象に自然環境や生き物を大切にする心を育み、子どもたちが自ら考え、学べることができるワークショップを実施する。	地域団体等との連携によるワークショップを開催した。 ・ワークショップ実施: 6回 ・参加者数189名			—	内容を工夫し、様々な事業を実施することができた。	引き続き子どもたちが興味を持つ内容のワークショップを実施予定。
1-(3)-④	48	-	-	ベイエリアみどりでつなぐプロジェクト	芝浦港南地区総合支所まちづくり課	区民や事業者と協力し、みどりの保全と創出に向けた普及・啓発を推進する。植物にふれあう自然学習の場を増やし、世代間交流を促進するとともに、みどりに親しむ機会の充実を図る。	・第10回グリーンツアー 11月23日 7名参加 ・田植え体験 5月12日 19組72名参加 ・稲刈り体験 9月29日 23組75名参加			—	・田んぼ事業に関して、募集方法を抽選とし、より多くの区民の参加が出来るように工夫した。 ・グリーンマップを活用したツアーの推進が出来た。	・グリーンマップを活用した、グリーンツアーの開催 ・田植え体験 ・稲刈り体験
1-(3)-⑤	48	-	-	エコライフ・フェアMINATOの実施	地球温暖化対策担当	多くの区民や事業者が環境に関する取組や情報を発信、交換、交流できる場としてエコライフ・フェアMINATOを開催する。環境に関連した参加型ワークショップやクイズラリー、ステージイベントなど、幅広い年齢層の区民等が楽しみながら学べることができるイベントとして実施する。	エコライフ・フェアを実施した。 ・開催時期: 5月 ・来場者数: 約4,730人			—	緑のカーテン用苗配布、エコクイズラリー、リサイクルバザー等が好評で、環境保全に対する意識向上につながる機会を提供できた。	より多くの区民に参加してもらうため、参加団体の出展を、幅広い年齢層が学び楽しめる多様な内容となるよう検討する。

No. (基本目標- 施策-事業)	掲載 ページ	重点	新規	事業名	担当課	計画に記載している 事業・取組の内容	実績			実績が計画と 異なる理由	令和6年度の評価 と事業の課題	今後の取組
							令和6年度	令和7年度	令和8年度			
1-(4)-①	50	-	-	トレジャー☆スクール～芝体験学習～における体験学習機会の創出	芝地区総合支所協働推進課	子どもたちの健やかな育ちを支援するため、自然についての理解を深める体験学習を、茨城県阿見町、福島県いわき市との協働により実施する。豊かな自然環境のもと、様々な体験の機会を創出することで、自然や環境への理解及び地域交流を深める。	・4、6、9、11月に阿見町を訪問し、農作業体験を通じ、環境への理解や地元住民との交流を深めた。 ・7月にいわき市を訪問し、乗船体験や海洋生物と触れ合う体験を通じ、環境への理解や地元住民との交流を深めた。			—	すべての活動を円滑に実施することができた。 いわき市での事業においては、いわき市役所にも協力を得て、充実したプログラムを遂行することができた。	参加費の徴収を決済機能付きLoGoフォームを導入することで、参加者の負担を減らす。
1-(4)-③	50	-	-	地域学校協働活動を通じた子どもの学びの支援	生涯学習スポーツ振興課	地域の人材等の協力を得て、地域と区立学校等が一体となって、子どもたちの学びや成長を支える基盤を整備する。子どもたちの教育活動等の充実のため、出前授業や職場体験等の機会を提供する。	区内の企業等が集う情報交流会等に出席し、出前授業や職場体験受入れの協力を依頼し、登録数を増やし、子ども達の教育活動の充実を図った。 ・出前授業登録講座数:164件 ・出前授業実績件数:105件 ・職場体験登録団体数:132団体(実績件数は計上なし)			—	・区内企業等へのアウトリーチにより、職場体験の受入れ先団体数については約2倍になった。 ・出前授業の登録数と開催数については、昨年度と概ね同数だった。	引き続き出前授業や職場体験の受入れ先の新規開拓のため、連絡・調整を実施し、迅速な情報共有を行う。
1-(4)-④	51	51	-	他自治体との連携による子どもの学びの場の提供	芝地区総合支所管理課/芝地区総合支所協働推進課	他自治体と連携し、子どもたちがお互いの地域を訪れ、豊かな自然体験の機会や現地の子どもたちとの交流の機会を創出する。地区内の大学や子ども向け事業に取り組む企業・団体等との連携を通じて、地域交流や世代間交流を図る。	【管理課】 神明中高生プラザにて小学生を対象に実施 ・第一ホテル東京 ①6月 第一ホテルの方が講師になりタオルアートを教えてくれる ②11月 お仕事体験(ホテルのロビーに飾られるクリスマスツリーの飾りつけ)、バックヤードの見学 ③2月 お仕事体験(ホテルのロビーに飾られるひな人形の飾りつけ)、バックヤードの見学 ・ホンダカーズは自転車シュミレーターを使って自転車安全運転教室を実施。 【協働推進課】 ・茨城県稲敷郡阿見町との交流事業を実施した 4月21日、6月16日、9月8日、11月24日(農作業体験) ・福島県いわき市との交流事業を実施した 7月20日(漁業体験)			—	【管理課】 全プログラムが円滑に実施され、体験者の満足度は高かった。 【協働推進課】 すべての活動を円滑に実施することができた。 いわき市での事業においては、いわき市役所にも協力を得て、充実したプログラムを遂行することができた。	【管理課】 引き続き地区内の施設等において、地域の企業等と連携した事業を実施する。 【協働推進課】 引き続き、茨城県稲敷郡阿見町及び福島県いわき町との交流を行うとともに、相互の魅力をPRすることで、さらなる地域発展を目指す。
					麻布地区総合支所管理課/麻布地区総合支所協働推進課		【協働推進課】 ・山形県舟形町との交流事業を実施した 8月2日～4日(サマースクール※中止) 11月13日(麻布支所でのPRイベント) ・埼玉県小鹿野町との交流事業を実施した 1月25日(ジオツアーin小鹿野町)			【協働推進課】 舟形町のサマースクールについては豪雨・河川氾濫の被害により安全に遂行することができないため、中止した。	【協働推進課】 小鹿野町:157組312名と多くの申し込みがあり、抽選倍率が高くなった。複数回の実施や参加条件等の検討が必要。	【協働推進課】 舟形町:プログラムの内容については、例年事業終了後のアンケートで好評を得ているため、引き続き実施していく。 舟形町と港区の子ども同士の交流については、より内容を深め交流が継続していけるプログラムの実施について協議を図る。 小鹿野町:内容については参加者から好評を得ているため、引き続き小鹿野町と交流を行い、実施する。
					赤坂地区総合支所管理課/協働推進課		【協働推進課】 ・小学生交流では、29名の児童が岐阜県郡上市を訪れ、郡上市の中学生や郡上踊り保存会の会員との交流、自然・文化体験等を行った。なお、体験教室終了後に参加者へ配布している冊子については、令和6年度から新たな形式で実施し、体験教室に行っていない保護者にも様子が伝わるような工夫をした。 ・中学生交流では、企業訪問、地域で活動する方や青山中学校生徒との交流等を行った。 ・「和歌山市SDGsプレツアー」を実施し、赤坂地区の小学生とその保護者9組が和歌山市を訪れ、自然体験や交流を行った。			—	【協働推進課】 岐阜県郡上市と和歌山県和歌山市の交流事業を通して、お互いの発展と子どもたちの健全育成につながる事業となった。冊子については、令和6年度同様に保護者に様子が伝わるような工夫が引き続き必要である。また、冊子の作成で必要な写真撮影し際に、掲載が難しい参加者がいたのでその点の対策を今後も考えていく必要がある。	【協働推進課】 引き続き岐阜県郡上市と子どもを中心とした交流事業を実施し、お互いのまちの発展や子どもの健全育成を図る。
					高輪地区総合支所管理課/高輪地区総合支所協働推進課		【管理課】 高輪地区内の大学との連携事業を実施した。 ・主な実施事業 子ども教育支援教室 ①美術制作教室・音楽教室 ②ダンス教室・テニス教室 ③自然科学系制作教室等 ・総実施日数:171日 ・総参加者数:3363人			—	【管理課】 東海大学と連携し、大学の知的・人的資源を活用した専門的なテーマを地域の児童が分かりやすく教わる機会を提供することで、大学生と児童との世代間交流を図ることができた。また、北里大学、明治学院大学へ働きかけ、令和5年度から新たに連携を開始した。	【管理課】 地域に大学生の活躍するコミュニティを創設していくため、東海大学だけでなく、高輪地区にある北里大学、明治学院大学との連携を深め、コミュニケーションジ事業を拡充する。
					芝浦港南地区総合支所管理課/協働推進課		【協働推進課】 ・秋田県にかほ市との交流事業を実施した 8月21日～8月23日 ・福島県柳津町との交流事業を実施した 8月10日～11日			—	【協働推進課】 ・にかほ市交流事業 計画通り実施。にかほ市との交流を深めるとともに、豊かな自然を体験してもらうことで子ども達の健全育成を促進した。 ・福島県柳津町交流 夏の交流は計画通り実施。柳津町の歴史や文化・自然を体験し、交流を深めた。冬の交流は柳津町側の事情により、中止となった。	【協働推進課】 引き続き、秋田県にかほ市及び福島県柳津町との交流を行うとともに、相互の魅力をPRすることで、さらなる地域発展を目指す。
1-(4)-⑦	51	-	-	生涯学習施設における子どもの学びの場の提供	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習センター及び青山生涯学習館で、夏休み等に子どもや親子向けの講座を実施し、子どもが主体的に学ぶ機会を提供する。	親子で参加できる体験教室を実施し、子どもが主体的に学ぶ機会を提供した。 ・体験教室2回、参加者数30組(60人))			—	民間や関係団体と協力し、親子で参加できる事業を開催することができた。	引き続き、親子で参加できる講座をはじめ、子どもが主体的・持続的に学ぶ機会を提供する。
1-(4)-⑧	51	-	-	児童館、子ども中高生プラザ等における学びの場の提供	各総合支所管理課/子ども若者支援課	児童館、子ども中高生プラザ等において、地域の子どもたちの仲間づくりをめざし、専任の指導員により様々な行事や各種のグループ活動、イベントを行う。	年間を通じて様々な行事や各種のグループ活動、イベント等を実施し、地域の子どもの仲間づくりを進めた。			—	・専任の指導員を中心とし、工夫しながら様々な行事を企画し、提供することができた。 ・施設の認知度や高校生世代の利用率の更なる向上が課題である。	・引き続き様々な行事や各種のグループ活動、イベント等を実施するとともに、施設の認知度や高校生世代の利用率の更なる向上に向けた検討を行う。

No. (基本目標- 施策-事業)	掲載 ページ	重点	新規	事業名	担当課	計画に記載している 事業・取組の内容	実績			実績が計画と 異なる理由	令和6年度の評価 と事業の課題	今後の取組
							令和6年度	令和7年度	令和8年度			
1-(4)-⑨	52	-	-	伝統文化交流館における子どもの学びの場の提供	芝浦港南地区総合支所管理課	伝統文化交流館において、地域の歴史に関する常設展示のほか、子ども向け事業として、季節の行事にあわせたイベントや親子で楽しむ演奏会等の公演やワークショップ、講座等を実施する。	・児童向けの伝統文化に関する公演、ワークショップ、講座を毎月開催した。 ・展示室にて地域の歴史に関する常設展示を実施した。 ・児童から高齢者まで多様な世代に向けた伝統文化に関する公演、ワークショップ、講座を毎月開催した。			—	子ども向けのゆかた作りや、日本舞踊などを積極的に開催し、中学生の職業体験にも希望する施設となってきた。	小中学生の目に留まり、参加したいと興味を持つような周知方法を考えていく。
1-(4)-⑩	52	-	-	図書館における子どもの学びの場の提供	図書文化財課	・区立図書館において、子ども読書まつりや、おすめの本を紹介しあう書評合戦の開催など、年齢に応じた読書活動を支援する。 ・令和6(2024)年度から、台場区民センター図書室を台場図書館へ移行し、子ども向け図書館サービスの充実を図る。	・各種イベントを実施し、各年代の子ども達が本に触れる機会を提供した。 ・台場区民センター図書室で行っていなかった、おはなし会などの子供向けイベントを定期開催し、サービスを充実させた。			—	・幼児から小学生向けに書評合戦、小学生から中学生向けに調べる学習コンクール、中学生から高校生向けに書評合戦を開催し、各年代の子ども達が本と触れ合う機会を提供した。 ・より多くの子どもがイベントに参加できるように周知を徹底する必要がある。	・引き続き子ども達向けに様々なイベントを開催し、学びの機会を提供する。 ・各港区立図書館、区立小中学校等との連携、港区立図書館HP、X、広報を通じて開催するイベントの周知を徹底する。
1-(4)-⑪	52	-	-	郷土歴史館における子どもの学びの場の提供	図書文化財課	郷土歴史館での、港区の自然、歴史や文化の体系的な展示により、小中高生の社会科見学をはじめ、イベントの開催や関係機関との連携を通じて、港区の歴史に触れることができる場を提供する。	・区内の小中学校と連携し、小学校の見学、中学校の職場体験に利用提供した。 ・子どもが参加できるイベントを開催し、郷土歴史館に足を運んでもらう機会を提供した。 ・歴史への興味をもってもらう材料として、子ども向け刊行物を発行した。			—	・一定数の区内小中学校と連携し、港区の歴史についての学びの場を提供した。今後により多くの機会を提供できるよう、積極的な連携が求められる。 ・子供にとってより魅力的なイベント内容を企画検討し、また情報発信を工夫して利用促進を図る余地がある。	・さらなる学校連携の強化により、広く見学や職場体験の機会を提供する。 ・郷土歴史館への関心を高め、イベント集客が向上するよう、より魅力的な企画や情報発信を検討する。
1-(4)-⑫	52	-	-	みなと科学館における子どもの学びの場の提供	教育指導担当	驚きや発見という子どもの知的好奇心を大切にし、子どもたち一人ひとりが科学の不思議にふれる「みなと科学教室」等とおして、論理的・科学的な思考力の向上を図る。	みなと科学館と連携し、全4回の講座を4コース(1回18人)設定し、子どもたちの科学的な思考力の向上につながった。			—	今年度は、電気、ミクロの世界、燃焼、水溶液というテーマで実施した。参加する児童・生徒のニーズに合ったプログラムを考える必要がある。	科学館スタッフと連携し、驚きや発見という目的に合ったテーマを考えていく。
2-(1)-②	54	-	-	生涯学習施設の学習環境の充実と機能の整備	生涯学習スポーツ振興課	誰もが生涯にわたり学び続けられるよう、施設的环境を充実させるとともに、社会教育士などの専門職を配置し、相談体制を強化する。また、生涯学習施設の整備について検討を進める。	生涯学習センターにおいて、以下の施設改修を実施するとともに、相談体制を強化した。 ・レクリエーションルームの床面木材について、サンディング及び再塗装を実施した。 ・トイレやエレベーターに突き出しビクトサインの取り付けを実施した。			—	生涯学習センターにおいて、施設改修等により、バリアフリーに配慮した環境整備を進めることができた。	引き続き、利用実態や周辺状況等を踏まえながら、施設整備・検討を実施する。
2-(1)-③	54	-	-	地域団体や民間企業等との連携による学びの場の提供	生涯学習スポーツ振興課	多様な学習資源を有する区の特性を生かし、地域団体や民間企業、大学、NPOと連携して、区民の生涯学習の機会を充実させるための交流イベントや講座を実施する。	・地域連携講座、港ユネスコ協会との連携講座を実施し、区民の生涯学習機会の充実を図った。 ・地域連携講座:3講座(計8回)、参加者数77人 ・港ユネスコ協会連携講座:6講座、参加者数130人			—	地域団体や関係団体と連携することにより多様なテーマ・内容で講座を開催することができ、参加者から高い評価を得ることができた。	引き続き、地域団体や民間企業等と連携した地域交流イベントや講座を実施する。
2-(2)-①	55	-	-	生涯学習施設における学びの場の提供	生涯学習スポーツ振興課	年齢や国籍、障害の有無に関わらず、区民の学びを支援するため、生涯学習活動の拠点である生涯学習施設において多様な講座等を提供するとともに、生涯学習情報の発信や相談機能を充実させる。	・いつでも・どこでも・だれでも参加が可能なオンラインツールを用いた講座を生涯学習施設で実施した。 オンライン講座:3回、参加者数69人 ・社会教育関係団体等の情報や区や関係団体が主催する生涯学習講座の情報等を区ホームページに掲載し、情報発信したほか、生涯学習センターの学習情報ルームで生涯学習情報の収集・提供を行った。			—	・区ホームページ、生涯学習施設等を通じて、生涯学習情報等を発信した。 ・情報発信するツールを増やし、生涯学習施設を知らない区民等に対し、周知した。	引き続き、区のホームページやSNSを通じて生涯学習情報の発信を強化するとともに、生涯学習センターの学習情報ルームの充実を図る。
2-(2)-②	55	-	-	いきいきプラザ等による活動の場の充実	各総合支所管理課/高齢者支援課	・高齢者のいきがいづくりや介護予防、健康づくりを支援する。 ・「高齢者のいきがいづくり、学びの場」、「介護予防、健康づくりの場」、「ふれあい、コミュニティ活動の場」として、いきいきプラザの一層の充実を図る。 ・様々なイベントや講座等により新たな利用を促進し、高齢者による自主的な地域活動の支援と、多様な活動主体との協働による地域の活性化を推進する。	・令和6年4月に新たに麻布いきいきプラザを開設し、区内17カ所を高齢者の地域拠点として適切に運営した。 ・いきがいづくり、介護予防、コミュニティ活動の場として、創意工夫した各種事業の実施とともに、浴室や敬老室等をコミュニティの場として運営した。			—	・各施設で、利用者の声を聞きながら、多種多様な教室・講座を実施しているほか、敬老室等の利用の促進を図り、地域の拠点として定着している。 ・高齢者人口の増加に伴い、幅広い世代からのニーズに、的確に応えていけるよう進めていくことが必要である。	・各施設の利用状況や施設運営状況の分析を進め、地域の拠点として一層親しまれるよう、データ整理を進める。 ・各地区の館長等で構成する定期的な連絡会を活用して、好評な事業等や課題などの共有を進める。
2-(2)-④	55	-	-	伝統文化交流館における講座の充実	芝浦港南地区総合支所管理課	伝統文化交流館において、地域の歴史に関する常設展示のほか、多様な世代に向けた伝統文化に関する公演やワークショップ、講座等を実施する。	・展示室にて地域の歴史に関する常設展示を実施した。 ・児童から高齢者まで多様な世代に向けた伝統文化に関する公演、ワークショップ、講座を毎月開催した。			—	・施設の認知度を高め、より多くの方に来館・展示をご覧いただけるように周知する。 ・講座への参加希望は抽選となるが、当日キャンセルや後半になるほど出席率が下がるので、対策や検討が必要。	引き続き、展示室にて地域の歴史に関する常設展示を実施し、児童から高齢者まで多様な世代に向けた伝統文化に関する公演、ワークショップ、講座を開催する。
2-(2)-⑦	56	-	-	男女平等参画センターにおける学びの場の提供	人権・男女平等参画担当	・区民及び団体の様々な活動を支援するとともに、女性の活躍とキャリア形成や、ワーク・ライフ・バランスの推進、仕事と家庭の両立、多様な性への理解促進など様々な講座・講演会を開催し情報提供する。 ・相談事業等として、家庭や仕事、人間関係、DV、性的指向、性自認等の様々な相談に応じる。	・リーブラ主催講座(33講座) ・相談事業心のサポートルーム 相談件数:2,823件 ・情報発信 男女平等参画情報誌「OASIS」の発行、メールマガジン、X、フェイスブック、インスタグラム、ホームページ等			—	・様々なアプローチからジェンダーに関わる主催講座を開催した。 ・性的マイノリティに関わる方を対象とした「るりあん」講座(全6回)は、講座に加え参加者同士が交流を持った。 ・子ども向け講座の「みんなであそぼう!」はホールを使用し、多くの大人と子どもと一緒に参加する講座となった。 ・一般相談や法律相談に加え、夫婦・家庭問題専門相談を展開し、相談事業の充実を図った。	・子育て世代の方、若者や男性の施設利用を増やしていくための事業等を工夫していく。 ・中学生以下の子どもが親と同伴でなくともリーブラ図書資料室や閲覧席等を利用できるようにし、若い世代に対して男女平等参画の啓発を行っていく。 ・相談事業にLGBT専門相談を導入した。全ての人が性別等にとらわれず自分らしく豊かに生きることのできる男女平等参画社会の実現を目指し、相談体制の更なる充実に取り組んでいく。

No. (基本目標- 施策-事業)	掲載 ページ	重点	新規	事業名	担当課	計画に記載している 事業・取組の内容	実績			実績が計画と 異なる理由	令和6年度の評価 と事業の課題	今後の取組
							令和6年度	令和7年度	令和8年度			
2-(2)-⑧	56	-	-	図書館における学 びの場の提供	図書文化 財課	・地域特性を踏まえた資料収集・提供すると ともに、資料を活用した展示や映画会、講座・講 演会等のイベントを開催し、多様な学びの場を 提供する。 ・令和6(2024)年度から、台場区民センター 図書室を台場図書館へ移行し、図書館サービ スの充実を図る。	・地域の情報拠点として、各地域の特性を踏まえた行政資料を収集し提 供した。 ・映画会や音楽会等幅広い年代が楽しめるイベント及び各図書館の地域 特性に合わせたイベントを開催した。			—	・各地域の行政資料を集め、利用者に提供し た。 ・幅広い年齢層が楽しめる様々なジャンルの講 座や映画会などのイベントを実施することが出 来た。	引き続き、各地域の特性を踏まえた資料の収集や幅 広い年齢層が楽しめる各種イベント等を実施し、多様 な学びの場を提供する。
2-(2)-⑨	56	-	-	郷土歴史館での講 座の実施	図書文化 財課	・常設展示のほか、企画・特別展示、イベントの 開催、特別展示に関連する講座をはじめとし た各種講座をとおして、港区を知り、魅力を感じ ることができるきっかけをつくる。 ・郷土歴史館の建物撮影を受け入れ、施設の 周知を一層図り、興味を持った方の来館を促 すことで、港区の歴史、文化等に触れる機会を つくる。	・企画・特別展示、イベントの開催、特別展示に関連する講座をはじめと した各種講座を実施した。 ・郷土歴史館の建物撮影を積極的に受け入れた。			—	・各種講座の実施により、郷土歴史館の魅力を 感じる機会を提供した。講座の実施が、より多 くの来館につながるための工夫が必要。 ・郷土歴史館の建物撮影を受け入れ、施設の周 知を図った。今後、より多くの人に、港区の歴 史・文化等に触れる機会を提供するため、効果 的な周知の検討が必要。	・各種講座の内容を充実させ、より魅力あるものにす ることで、来館者を増やし、区の交流拠点としての歴 史的建造物活用をする。 ・郷土歴史館の建物撮影受け入れについて、効果的な 周知をし、港区の歴史・文化等に触れる機会を増や す。
2-(2)-⑩	57	-	-	みなと科学館にお ける体験する場の 提供	教育指導 担当	科学に関する情報の発信拠点として、誰もが 興味関心を持ちやすい科学体験の入口となる プログラムから、最先端の研究内容を学ぶプ ログラムまで多様な利用者層に応じた講座を 実施する。	みなと科学館と連携し、全4回の講座を4コース(1回18人)設定し、子 どもたちの科学的な思考力の向上につながった。			—	当日欠席の児童の分を、講座に興味をもって本 当に受けたという強い思いのある児童に受 講させていく方法を考える必要がある。	科学教室に興味のある区内の小学校5年生を対象に 募集する。
2-(3)-⑤	59	-	-	チャレンジコミュニ ティ大学における リーダー養成	高輪地区 総合支所 協働推進 課	・高齢者等が生きがいのある豊かな人生を創 造するとともに、学習を通じて、個々の能力を 再開発することをめざす。 ・地域活性化や地域コミュニティの育成の原動 力として積極的に活躍する地域活動のリー ダーを養成する。	修了生は、大学の講座を通じて習得した知識やこれまでの経験を生かし、 区民参画組織の委員や民生・児童委員として地域コミュニティ作りに積 極的に貢献しているほか、CCクラブとしての活動も積極的に行っている。 修了生数：59人 ※出席日数不足により1人は修了できなかった。			—	コロナ禍前と同様に、校外学習や福祉施設見 学、宿泊研修へ行き、令和6年度のカリキュラム を予定通り実施した。	チャレンジコミュニティ大学の実施及び修了生の活動 を支援することで地域コミュニティのリーダーを育成 する。
2-(3)-⑥	59	-	-	地域間子ども交流 ～あらたなはっけ ん あらたなきずな ～の実施	麻布地区 総合支所 協働推進 課	・児童が自然や農業、伝統文化などを体験で きる交流事業を実施し、健全な成長を促すと ともに他自治体への関心が深まる取組を実施 する。 ・地域のイベントの際に特産品の販売を行うほ か、交流事業実施時に現地児童との交流を図 るなど、双方向の交流事業とする。	山形県舟形町： 【令和6年8月2日～4日】 ・麻布地区サマースクールin舟形町を予定。7月末の東北地方におい て、豪雨・河川氾濫の被害があり、舟形町側の実施不可能の判断により 中止。 【令和6年10月14日～31日】 舟形町と麻布地区の交流の様子、7月豪雨の被災状況のパネル展を麻 布支所1階ロビーにて実施。メッセージの募集と募金を行った。 【令和6年10月27日】 ・舟形町町政施行70周年記念式典に参加。(副区長、協働推進課長) 【令和6年11月13日】 舟形町の魅力PRイベントを実施した。舟形中学校の2年生が特産物販 売を麻布支所玄関にて行った。パネル展で集まった募金とメッセージを お渡しした。 埼玉県小鹿野町： 【令和7年1月25日】 ・ジオツアーin埼玉県小鹿野町を実施した。参加者は18組42名。			舟形町のサマースク ールについては豪雨・河川 氾濫の被害により安全 に遂行することができ ないため、中止した。	小鹿野町：157組312名と多くの申し込みがあり、抽選倍率が高くなった。複数回の実施や参 加条件等の検討が必要。	舟形町：プログラムの内容については、例年事業終了 後のアンケートで好評を得ているため、引き続き実施 していく。 舟形町と港区の子ども同士の交流については、より内 容を深め交流が継続していけるプログラムの実施に ついて協議を図る。 小鹿野町：内容については参加者から好評を得ている ため、引き続き小鹿野町と交流を行い、実施する。
2-(3)-⑦	59	-	-	子ども地域間交流 事業 ～離れていて も心は一つ！～の 実施	赤坂地区 総合支所 協働推進 課	岐阜県郡上市・和歌山県和歌山市と子どもを 中心とした交流事業を実施する。 ・赤坂地区の小学生が郡上市を訪れ、川遊び 等の自然体験や郡上市の文化に触れる体験を とおして、郡上市の子どもたちとの交流を図 る。また、郡上市の中学生が港区を訪れ、港区 と郡上市のつながりや企業訪問等の体験学習 を行う。 ・和歌山県和歌山市との交流事業は、赤坂地 区の小学生と保護者が和歌山市を訪れ、和歌 山の豊かな自然の中で歴史とSDGsについて 学ぶ。	・小学生交流では、29名の児童が岐阜県郡上市を訪れ、郡上市の中学 生や郡上踊り保存会の会員との交流、自然・文化体験等を行った。な お、体験教室終了後に参加者へ配布している冊子については、令和6年 度から新たな形式で実施し、体験教室に行っていない保護者にも様子 が伝わるような工夫をした。 ・中学生交流では、企業訪問、地域で活動する方や青山中学校生徒との 交流等を行った。 ・「和歌山市SDGsプレツアー」を実施し、赤坂地区の小学生とその保護 者9組が和歌山市を訪れ、自然体験や交流を行った。			—	・岐阜県郡上市と和歌山県和歌山市の交流事 業を通して、お互いの発展と子どもたちの健全 育成につながる事業となった。冊子について は、令和6年度同様に保護者に様子が伝わるよ うな工夫が引き続き必要である。 ・冊子の作成で必要な写真撮影した際に、掲載 が難しい参加者がいたのでその点の対策を今 後も考えていく必要がある。	引き続き岐阜県郡上市と子どもを中心とした交流事 業を実施し、お互いのまちの発展や子どもの健全育成 を図る。
2-(3)-⑧	59	-	-	赤坂・青山子ども 共育事業の実施	赤坂地区 総合支所 協働推進 課	・子どもに関わる地域の企業・団体等とのネッ トワークを構築し、子どもを地域ぐるみで見守 り、育てる環境を整備する。 ・住民や地域団体、地域の企業等との連携と 協働により、「驚き、感動、気づき」を与え、「自 ら考え、行動する」機械となる講座を実施す る。	地域の住民や団体、企業等との連携により講座を実施した。 ・文化講座 全6回 参加者153名 ・スポーツ講座 全2回 参加者57名			—	・全講座で定員を超える申込みがあり、多くの 人に参加いただくことができた。 ・赤坂・青山地域とつながりの深い企業や講師 に教えていただき、講座自体の魅力を高めるだ けでなく、参加者が講師や地域とのつながりを より深く感じる機会となった。 ・共育事業の趣旨の一つである「地域への愛着 醸成」についても講座に取り入れながら本事業 に取組む必要がある。	引き続き子どもに関わる地域の企業・団体等とのサ ポートを実施するとともに、文化系・スポーツ系講座を 開催する。
2-(3)-⑨	59	-	-	たかなわ子どもコ ミュニティカレッジ における交流の促 進	高輪地区 総合支所 管理課	・高輪地区内の大学と連携し、大学構内や区内 施設に交流の場を設け、地域児童の交流を促 進する。地域の方や大学生にも参加してもら うことで、地域交流及び多世代交流も図る。 ・地域の児童を対象に大学の知的・人的資源 を活用し、専門的な研究テーマをわかりやすく 学ぶ機会を提供する。	・主な実施事業 子ども教育支援教室 ①美術制作教室・音楽教室 ②ダンス教室・テニス教室 ③自然科学系制作教室 等 ・総実施日数：171日 ・総参加者数：3363人			—	・東海大学と連携し、大学の知的・人的資源を活 用した専門的なテーマを地域の児童が分かり やすく教わる機会を提供することで、大学生と 児童との世代間交流を図ることができた。 ・北里大学、明治学院大学へ働きかけ、令和5年 度から新たに連携を開始した。	・地域に大学生の活躍するコミュニティを創設してい くため、東海大学だけでなく、高輪地区にある北里大 学、明治学院大学との連携を深め、コミュニティカレ ジ事業を拡充する。
2-(3)-⑩	60	-	-	歴史と文化がつな ぐ地域交流事業の 実施	芝浦港南 地区総合 支所協働 推進課	芝浦港南地区と交流のある秋田県にかほ市や 福島県柳津町とのつながりを生かし、子ども たちをはじめとした住民同士がお互いの地域 を訪れ、文化や歴史にふれる機会を提供する。	・秋田県にかほ市との交流事業を実施した 8月21日～8月23日 ・福島県柳津町との交流事業を実施した 8月10日～11日			—	・にかほ市交流事業 にかほ市との交流を深めるとともに、豊かな自 然を体験してもらうことで子ども達の健全育成 を促進した。 ・福島県柳津町交流 夏の交流は計画通り実施。柳津町の歴史や文 化・自然を体験し、交流を深めた。冬の交流は 柳津町側の事情により、中止となった。	引き続き、秋田県にかほ市及び福島県柳津町との交 流を行うとともに、相互の魅力をPRすることで、さら なる地域発展を目指す。

No. (基本目標- 施策-事業)	掲載 ページ	重点	新規	事業名	担当課	計画に記載している 事業・取組の内容	実績			実績が計画と 異なる理由	令和6年度の評価 と事業の課題	今後の取組
							令和6年度	令和7年度	令和8年度			
2-(3)-⑪	60	-	-	港区スポーツふれあい文化健康財団の支援	地域振興課/国際化・文化芸術担当/健康推進課/生涯学習スポーツ振興課	港区スポーツふれあい文化健康財団が実施する様々な事業を通じて、コミュニティづくりを支援するとともに、区民の生涯学習活動を推進する。	みなと区民まつり、MINATOシティハーフマラソンの実施のほか、公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団が実施する、スポーツ、文化、生涯学習、健康増進、コミュニティの各分野に関する事業において、財政面から支援を行った。			—	効果的・効率的な事業を目指した事業のスクラップアンドビルド、会員制度の充実や寄付金、協賛企業の獲得などに引き続き取り組む必要がある。	引き続き、MINATOシティハーフマラソンやみなと区民まつり等、公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団が実施する事業において財政面から支援を行う。
2-(3)-⑫	60	-	-	アートイベント「ミナコレ(MINATO COLLECTION)」の実施	国際化・文化芸術担当	・区民が、区内の豊富な文化資源に身近に接し、「国際都市・港区」の魅力を知るとともに想像力や感性を育み、より豊かな人生を送るための機会を創出する。 ・区と区内の美術館・博物館、大使館等が連携し、古今東西の様々なアートや文化、現代の先端技術等を楽しみながら参加できるスタンプラリーを実施する。規定数以上のスタンプを獲得した参加者を対象に大使館訪問を実施する。	区民が区内の豊かな文化資源に触れる機会を創出するため、区と区内の美術館及び博物館等が連携したスタンプラリーイベントを実施した。			—	リアルスタンプとデジタルスタンプを併用して開催したが、リアルスタンプについては、配布数ほど応募につながっていないため、応募形式を検討する必要がある。	リアルスタンプ及びデジタルスタンプどちらの形式でも応募しやすくし、広く区民が参加しやすくする。
3-(1)-①	61	-	-	生涯学習講座提供事業(まなび屋)の充実	生涯学習スポーツ振興課	区民等が教えたい講座を区に登録し、学びたい区民団体等の依頼に応じて無料で講座を実施する。事業の利用促進のため、多様な媒体で周知するとともに、生涯学習センターの相談を通じて「教えたい人」と「学びたい人」をつなぐ。	・事業の利用促進のため、区ホームページやSNS等で事業を周知をした。 ・事業に興味のある人と登録講師が直接交流するイベントを2回実施した。 参加人数:計15人(講師15人)			—	これまでの取組に加え、令和6年度は生涯学習センターと協力し、事業開始以来初めてのリアルマッチング事業を開催することができた。	・引き続き、様々な媒体を利用して、事業の周知に取り組む。 ・事業の紹介動画(登録講師の講座紹介を含む)を撮影し、HPやサイネージ等での放映する。 ・事業のパンフレットについては掲載内容を見直し、より多くの枚数を配れるようチラシに変更する。
3-(1)-②	61	-	-	フェスティバルーン(社会教育関係団体の活動成果の発表)	生涯学習スポーツ振興課	社会教育関係団体の学習活動の成果を発表する場として「フェスティバルーン」を開催し、団体相互の交流・親睦を図る。また、学びの成果を地域に還元するため、地域との連携を強化する。	社会教育関係団体等が日頃の学習成果を発表するフェスティバルーンを開催し、学びの成果を地域に還元した。 ・参加数:55団体(来場者数:20,049人)			—	フェスティバルーンを開催することで社会教育関係団体等の学習成果を発表の場を提供できた。	引き続き、社会教育関係団体等が日頃の学習成果を発表する場を設けていく。
3-(1)-③	62	-	-	社会教育関係団体との連携講座	生涯学習スポーツ振興課	社会教育関係団体による体験講座を開催し、団体の活性化を図るとともに、多くの区民が興味を持てるよう、講座を区ホームページで動画配信し、団体の活動を紹介する。	団体の活性化を図るため、協働参画事業を開催した。 ・開催数:5講座(計8回) ・参加者数合計:109人)			—	・社会教育関係団体等の協力を得て協働参画事業を実施したが、新たに講師となる団体が不足している。 ・社会教育関係団体等への活性化を図る。	引き続き、社会教育関係団体研修等を通じて協働参画事業について周知することにより、新たな協働参画事業の企画に取り組む。
3-(1)-④	62	-	-	芝の語り部養成講座の開催	芝地区総合支所協働推進課	芝地区の魅力を区内外に発信するための人材を養成する。芝の語り部養成講座を実施する。芝地区の歴史やガイドの講義、まち歩きツアーの実践などを学び、講座修了後は、「芝の語り部」としてまち歩きツアーのガイド等を担う。	芝の語り部養成講座を実施した。 ・基本講座 6回(6人参加) ・スキルアップを2人修了			—	ツアーや講座の受付方法に、LoGoフォームを加えたことで、参加者の拡大を図ることができた。	ツアーの動画を作成し、障害のある方でもツアー体験ができるような仕組みを作る。
3-(1)-⑥	62	-	-	港区観光ボランティアガイドの育成・支援	観光政策担当	国内外から訪れる観光客のニーズにきめ細かく対応するため、観光ボランティアガイドの新規募集及び養成講座、スキルアップ講座を実施するとともに、一般社団法人港区観光協会と連携して観光ボランティアガイドの活動を支援する。	・スキルアップ講座はオンライン講座1回と参集講座4回のハイブリット型を予定していたが、急遽、参集回1回分をオンラインで実施したため、オンライン講座2回、参集講座3回の実施となった。 ・ガイドと連携した観光案内者数は、観光客数の増加に伴い、大幅に回復傾向にある。			—	・4年ぶりに新規の観光ボランティアガイドを育成する講座を開催。取組意欲の高いガイドの育成につながった。 ・スキルアップ講座については、例年から引き続き、受講生から人気の高い、港区の地理や歴史に特化したテーマを盛り込んだ。 ・ガイドと連携した観光案内については、英語ツアーや忠臣蔵ツアー等の話多様なテーマでのまち歩きや、区のイベントと連動した活動を実施した。	・引き続き質の高いガイドの育成を維持するとともに、新たに育成したガイドの活躍の場を創出する必要がある。 ・スキルアップ講座については、オンライン・参集型の講義を設け、ガイドとして実践的な知識や緊急時の対応を学べるような内容とする。 ・ガイドと連携した観光案内については、観光客のニーズを捉えた案内や、区のイベントと連動した活動を通じて、より効果的に港区の魅力を発信できる取組を検討していく。
3-(1)-⑦	62	-	-	介護予防リーダーの養成	高齢者支援課	地域における介護予防の担い手として活動する人材を養成するため、20歳以上の区民を対象に、介護予防に必要な知識を学ぶ介護予防リーダー養成講座、自主活動等支援のためのフォローアップ研修を実施する。	介護予防リーダー養成講座を実施した。 ・12名養成 ・フォローアップ研修:2回			—	40代から70代と幅広い世代から参加があった。介護経験がある人や、自身のために学びたいと意欲のある人が多く集まり、活発な意見交換が行われた。	幅広い世代に担い手として活動してもらえるよう、講座の開催場所や曜日の選択肢を広げていく。また、各関係機関と連携して講座の周知も引き続き行う。
3-(2)-①	63	-	-	学びの循環事業「まなマルシエ」	生涯学習スポーツ振興課	地域や世代を超えた人々が集まり、自主的に講座や事業を企画・運営する学びの循環事業「まなマルシエ」を実施する。参集形式とオンライン配信を組み合わせ、誰でも参加できる環境を整える。	指定管理者が「港区で街活～プレイスメイキング～」をテーマに、学びの活動を広げたい人やワークショップの手法を学びたい人に向けた講座を実施した。まなマルシエDAYはハイブリッド方式(参集とオンライン)で講座を実施し、誰でも参加できる環境を整えた。 参加者:48名			—	・39名のメンバーが6回にわたってワークショップ等の作り方を学んだ。講座終了後、自主的な活動を行ったという報告が2件あった。 ・自主活動に係る講師謝礼負担事業については、アンケートで申請する及び検討すると回答した受講者に募集要項を送付し、その後2回程度状況確認を行ったが、申請には至らなかった。	・受講者の講座受講後の動向を把握するために、これまでは当年度の受講者を対象にアンケートを行ってきたが、今後は事業開始(平成29年度)からこれまでの参加者全員を対象にアンケートを行い、その後の動向を把握する。 ・また、自主活動が活発になるように、困っていること等を把握し、講師謝礼負担事業に加え、区が行える支援を探る。
3-(2)-②	63	-	-	さくらだ学校の運営	生涯学習スポーツ振興課	生涯を通じていきいきと暮らしていける社会を実現するため、高齢者等が講座を企画、立案及び運営し、仲間づくりや自らの意思で学べる機会を提供する。	さくらだ学校企画運営委員講座、企画運営委員会を実施し、高齢者等の仲間づくりの支援や自らの意思で学べる機会を提供した。 さくらだ学校企画運営委員講座:4回実施(参加人数延べ85人) ・企画運営委員会:6回実施(企画運営委員計7人)			—	さくらだ学校企画運営委員講座では、高齢者等が企画立案・運営等に関わることで、より参加者のニーズを捉えた内容とすることができた。	引き続き、高齢者等がいきいきと暮らしていく社会を実現するため、企画立案・運営等に関わるさくらだ学校企画運営委員講座を実施していく。
3-(2)-③	63	-	-	ご近所イノベーション学校の実施	芝地区総合支所協働推進課	・地域にかかわる一人ひとりが「やりたいことをまちにつなげる」ことで実現する新しい地域づくり(=「ご近所イノベーション」)を支援する「ご近所イノベーション学校」を実施する。 ・講座をとおして地域コミュニティを活性化し、人と人、組織と組織をつなぐことができる「人財(じんざい)」を養成する。 ・講座修了生が地域活動を推進するための情報を提供し、継続的に支援する。	・ご近所イノベーション学校を開校し、ご近所イノバータ養成講座を全9回実施した。 ・修了生には、活動の参考になる資料等の提供を行い、活動の幅を広げることができた。			—	・対面とオンラインのハイブリット形式で講座を実施した。 ・講座の周知を進めるため、芝地区公式SNSを活用し発信した。	引き続き芝地区公式SNSを活用し、講座や講座修了生の活動について、発信していく。

No. (基本目標- 施策-事業)	掲載 ページ	重点	新規	事業名	担当課	計画に記載している 事業・取組の内容	実績			実績が計画と 異なる理由	令和6年度の評価 と事業の課題	今後の取組
							令和6年度	令和7年度	令和8年度			
3-(2)-④	64	-	-	みんなでまちをよ くする「ミナヨク」 の実施	麻布地区 総合支所 協働推進 課	・地域に愛着を持って地域活動を行う「地域サ ポーター」として活躍できる人材を発掘・育成 する。 ・地域活動に興味がある麻布地区在住・在勤 者等が集まり、講座やワークショップをとお して、麻布地区について学んだことを地域活動 で実践することで、継続的に地域コミュニティ に関われる仕組みづくりを支援する。	DAY1～DAY5の5回開催 講座やグループディスカッション、フィールドワークを行い、最終日はレ ンタルスペースで自分たちがどのような地域活動をしていきたいかが プレゼンテーションした。 参加者：17名			—	・講座やフィールドワークを行うことで地域の 良さや課題を深めることができ、地域活動の内 容にも反映されていた。 ・修了生が地域コミュニティと連携した活動を 展開し始めているが、区の支援の在り方が今後 の課題である。	講座以外の定期的なオンラインミーティングの実施 や、講座回数を増やすことで内容についてはさらに充 実をさせる。講座終了後に地域サポーターとして活動 していくための実践力習得を目指す。
3-(2)-⑤	64	-	○	麻布地域の魅力伝 承事業	麻布地区 総合支所 協働推進 課	写真の収集及び展示、講演会やまち歩きガイ ドツアーの実施、あざぶカルタなどを使ったイ ベントの開催など、幅広い世代に麻布の魅力 を発信する。	フジフィルムスクエアにおけるパネル展示のほか、事業者から提案の あった「クイズ&スタンプラリー」や麻布の魅力を発信ウする講演会「あ ざぶら部フェスタ」を実施した。			—	・「あざぶら部フェスタ」は定員150名の募集が 早期に満員となるなど盛況だった。 ・新規参加者の加入（特に若年層）が課題として 残っている。	既存の活動に加え、新規参加者の加入を目指し、広い 世代が興味を持ち参加できる区民参加型の企画を立 案していく。
3-(3)-②	66	-	-	青少年の健全育成 のための支援	生涯学習 スポーツ 振興課	青少年の健全育成を推進するため、地域人材 を青少年委員として委嘱し、青少年の余暇活 動の充実や地域活動の充実や地域活動の推 進、青少年団体の育成支援等を行う。	・改選を経て新規委員を委嘱し、全体の人数が増えた。 ・青少年の健全育成の推進のため、区の事業や各地区のイベントなど多 くの活動を実施した。 ・青少年の健全育成を目指しこれらの活動する青少年委員を支援した。			—	区の事業や各地区のイベントなど多くの活動を 実施することができ、その支援もした。報酬と 定年の見直しを検討すべく、23区に対してアン ケート調査も実施することができた。	引き続き、青少年教育の振興を図るため、青少年の余 暇活動の充実や地域活動の推進、青少年団体の育成 支援等に努める。
3-(3)-③	66	-	-	学校施設開放の活 用推進	生涯学習 スポーツ 振興課	区民が地域の身近な場所で生涯学習やスポ ーツ活動、コミュニティ活動を行えるよう、学校 教育に支障のない範囲で学校施設を開放し、 活動を支援する。	登録団体以外の一般団体にも開放し、区民が地域の身近な場所で生涯 学習やスポーツ活動が行えるよう支援した。 ・令和6年度利用実績：21,463件(413,400人)			—	・地域のスポーツ活動団体へ地域に身近な場所 でスポーツ活動の場を提供することができた。 ・令和6年2月に全学校に施設予約システムを 導入し、教職員にとっての利便性を高めること ができた。	・施設予約システムを本格導入し、利用者の利便性向 上と学校側の負担軽減を図りながら、施設開放の取 組を実施する。
3-(2)-⑦	66	-	-	みなと環境にやさ しい事業者会議の 支援	地球温暖 化対策担 当	事業者、区民及び区が連携して環境保全活動 に取り組む「みなと環境にやさしい事業者会 議(通称:mecc(メック))」の会員事業者が中 心となり、打ち水やスポーツGOMI拾い大会、 子ども向けのワークショップなどの環境保全 に関する普及・啓発活動を実施する。	・親子向けワークショップ 参加者数:計156人 ・スポGOMI 大会in みなと 参加者数:200名			—	会員事業者の取組を区民に発信するイベント 「mecc EXPO」を区役所本庁舎で実施し、普 段アプローチできていない区民へも活動の啓 発ができた。	今後も会員事業者同士が相互に連携を図り、充実した 内容のワークショップや環境保全活動を実施する。